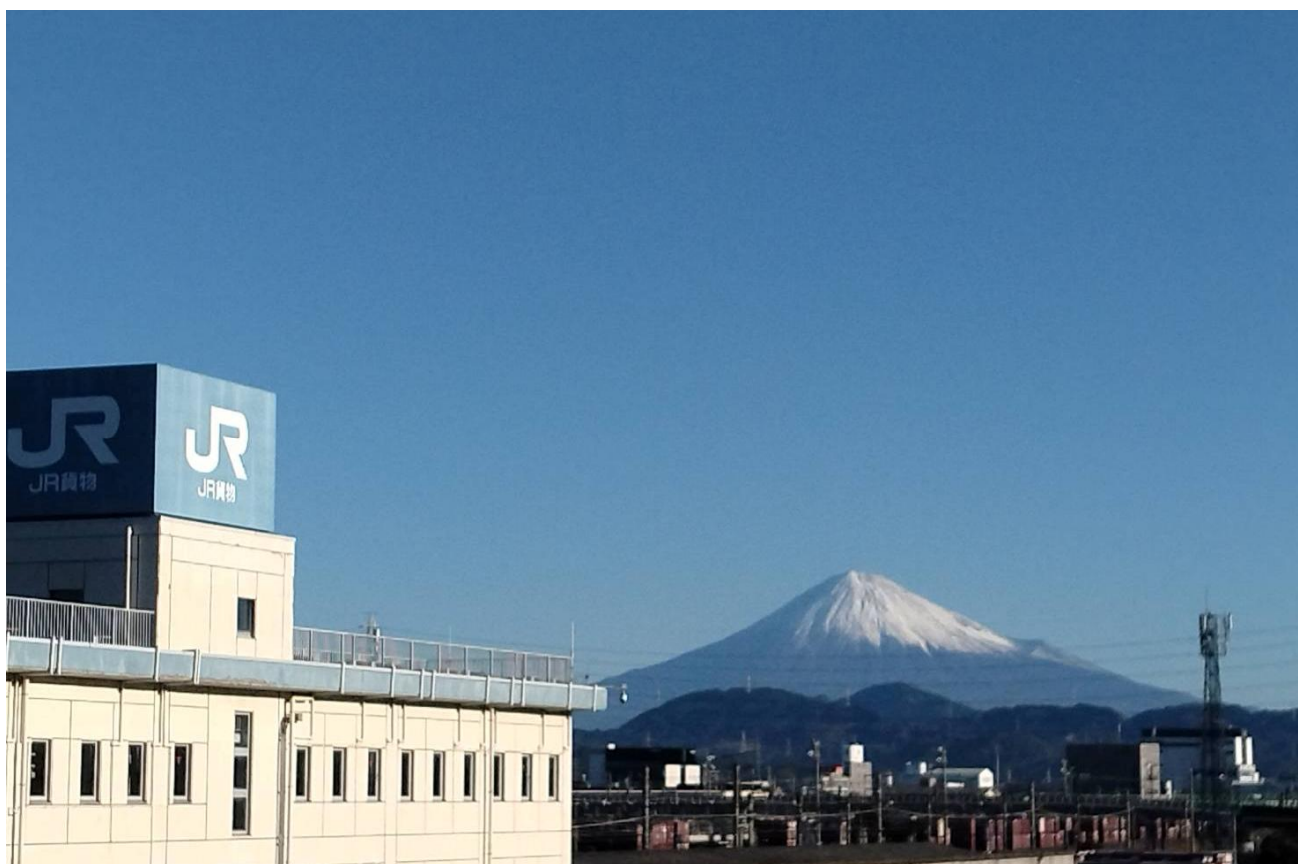


謹賀新年



あけまして

おめでとーございます

本年もよろしく

お願いいたします

中央執行委員長

辻村和裕

中央執行副委員長

吉永和文

書記長

鈴木教仁

中央執行委員

埴岡大介

特別中央執行委員

菊地克敏

特別中央執行委員

小山達礼

青年女性委員会議長

小林優太郎

会計監査

鈴木俊巳

会計監査

加藤典久

職員

田中千絵

令和八年 元旦



辻村中央執行委員長

2026年あけふ

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。年齢を重ねると共に月日の流れが早く感じる今日この頃ですが、本年も貨物鉄産労の発展に向け、気持ち新たに取り組んでまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新年にあたり、自分なりの決意を述べさせていただきます。まずは、安全についてです。私たちは、JR連合方針のもと「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を目標に取り組んでいますが、2017年12月16日、鹿児島線・千早操車場構内において旅客列車と触車し、組合員が犠牲になったことは痛恨の極みであり残念でなりません。あの事故から

8年が経過しましたが、2025年はJR産業で多くの死亡労災が発生し、強い危機感を覚えなくてはなりません。特に、熱中症対策については、十分なケアが必要であり、熱中症で命を落とすことのないよう、今から議論が必要で

重大事象では、2024年7月、新山口駅構内において脱線事故があり、その後も、川内駅構内・函館線、森く石倉間・レール腐食・東青森駅構内・北九州タ駅構内・大竹駅構内・浜川崎駅構内・札幌タ駅構内と、約一年半という短い期間に連続して脱線事故が起きていることを深く反省しなければなりません。この状況は、約70日に一度のペースで脱線事故が起きている、まさに異常事態とも言える、まさに異常事態とも言える、輪軸組立不正問題によりグループ会社全体で信頼回復に努めていますが、これでは信頼関係を構築することは出来ません。改めて「安全」について見つめ直し、業務においては常に責任感を持ち、再発防止・安全強化に対する取り組みを、より一層作り上げていかなければなりません。安全に終わりはありません。

次に政策課題です。

JR貨物に追い風が吹くと言われた2024問題から2年近くが経過しますが、営業費用増大もあり、厳しい経営状況から抜け出せないなか、昨年11月、財務省の財政制度等審議会より「JR貨物は、抜本的な改革が必要である」との主旨の答申が出されました。これを受けて、大飼社長は「ピンチをチャンスに変え、鉄道貨物の必要性・重要性をアピールするきっかけになれば」と定例挨拶で発信しましたが、この沈んだ状況を打破するためにも、JR貨物が大きく変わるチャンスだと思っています。

2027年にはアポロール改定が控えており、JR貨物は「国鉄改革のスキームは守ってもらいたい」という立場ですが、1987年の国鉄改革から40年が経過し時代は大きく変容しており、人件費高騰・材料費高騰・要員不足が顕著で、各旅

客会社においてもかなり厳しい状況であることは間違いないと思います。

「スキームを守ってもらいたい」という一辺倒ではなく、収益性の少ない列車は切るなど、身を切る抜本的な改革を内外に示すことが、アポロール改定を進めていく上でも非常に重要だと思っています。コロナが収束し、2024問題においても輸送量が伸び悩み、会社全体が暗い雰囲気となっていますが、ピンチをチャンスに変え、労使が一体となってこの難局を克服していきましょう。

鉄道強靱化については、年々、自然災害が甚大化しており、河川の決壊等による鉄道被災が相次いでいます。復興に貢献できる安全で信頼されるJR貨物会社を築きあげ、社会的使命を果たし災害に強い強度な鉄道設備を早期に作り上げるようJR連合と共に取り組んでいきます。

次に組織課題です。2023年度に国鉄組が60歳になる大きな転換期から2年が

経過しました。先輩方のご尽力により、これまで築き上げた鉄産労を今後も守っていく使命が私達にはあります。組織減少という大きな課題を克服し、勇気ある決断をしてくれた仲間のためにも、JR連合・貨物鉄産労・各ロジ労組が連携を密にし、その総力を結集し組織運動を盛り上げていきたいと思っています。

次に労働条件についてです。人事制度一部見直しにより、退職年齢が65歳となりましたが、若い社員は、今の生活を楽しく謳歌したいため、賃金面において、多くの不満・不信・不安を抱えています。

春闘・期末手当では低額回答が続く、社員のモチベーションは下がるばかりで、この状況は会社の発展にも支障をきたします。日本の人口は、今後、毎年90万人近くが減少していき、10年後には1000万人近くの人口減となることとが確実だと言われている。人口減の将来を見据え、多くの企業が労働者確保のために賃金改善を積極的に進めるなか、JR貨物は明らかに

遅れをとっており、離職防止・優秀な社員確保のためにも、会社は積極的な人財投資が必要であります。春闘・期末手当・人事制度においては、組合員の切実な声を拾い、何より会社全体を明るくするためにも、労働条件改善を強く要望していきます。

最後に、私は平成5年（1993年）4月、20歳で入社し30年以上が経過しました。これまで大きな病気もなく、昼夜を問わず仕事や組合活動に従事できるのは、家族の多大なる理解や協力のおかげであり大変感謝しております。今後も感謝の気持ちをお忘れず日々精進していきたいと思っております。

これからもあらゆる角度から貨物鉄産労運動・運営を精査し、これまで築き上げた貨物鉄産労がさらに発展するよう頑張っていく所存です。組合員の皆様におかれましては、体調を崩しやすい時期ではありますが、お身体に気をつけ、今後も本部に対し叱咤激励をお願いし、私からの挨拶を終えたいと思います。本年も宜しくお願い致します。



上村JR連合会長

2026新年あいさつ

明けましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃のご精励と組合活動へのご理解、ご協力に感謝いたします。年頭にあたり、心新たに3点について決意を申し上げます。

まず第一に、安全の確立です。4月25日で福知山線列車事故から21年が経過します。当事故を引き起こしたJR西日本、JR西労組出身として、事故の反省と教訓を胸に、引き続き何よりも安全にこだわってまいります。JR産業の基盤は安全と信頼です。これまでの不断の取り組みによりJR産業の安全性は確実に向上していますが、改めて、各職場で危険やリスクの洗い出しをおこ

なっております。2026春季生活闘争においても、堂々とベースアップを掲げ、積極的な賃上げにこだわってまいります。JR連合加盟全単組がワンチームで取り組むこととします。

第二に、2026春季生活闘争についてです。昨年の春闘では、多くの単組が過去最高額のベースアップを勝ち取るなど、大きな成果を収めることができました。しかしながら、JRグループでは今なお人財の確保・定着に苦勞しています。JR産業の魅力

を高めるためにも、継続的な賃上げが重要であることは論をまちません。社会全体では、高止まりしている物価の影響で実質賃金のマイナスが続いていますが、最低賃金は6%以上上がりました。人財への投資は最大の成長投

資です。2026春季生活闘争においても、堂々とベースアップを掲げ、積極的な賃上げにこだわってまいります。JR連合加盟全単組がワンチームで取り組むこととします。

第三に、男女平等参画についてです。昨年10月に開催された「連合ジェンダー平等推進集会」に寄せられた、国際労働組合総連合（ITUC）平等局長のメッセージを紹介いたします。「男女平等、ジェンダー平等なくして民主主義は存在しない。女性がリーダーシップを発揮することで、労働組合はいつそう強くなり、より包摂的になり、すべての人々に社会正義をもたらす」。JR産業における女性活躍がようやく進み始め、労働組合への女性参画の輪も確実に広がっています。女性が運動に参画しやすい環境は、誰もが運動に参画しやすい環境です。男女平等参画を通じ、組織と運動をさらに拡大・強化していきます。

結びに、組合員とご家族の

幸せ実現のために、この一年、全力で諸課題に正面から向き合い、取り組みを進める決意を申し上げます。年頭のご挨拶とします。



公式キャラクター
ビットくん

「たすけあいの輪をむすぶ」
こくみん共済 coop は、次のステージへ

こくみん共済〈全労済〉

全国労働者共済生活協同組合連合会

たすけあいの輪をむすぶ

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。